

旭川市社会福祉審議会会議内容報告書
〔 令和5年度第2回 地域福祉専門分科会 〕

開催日時 令和5年8月1日（火）
午後6時30分から午後8時00分まで
開催場所 第二庁舎3階 問診指導室

| | |
|----------------|--|
| 会議の名称 | 令和5年度第2回 旭川市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 |
| 出席者 委員（12名） | 浅野 正一委員，上田 信二委員，内村 満委員，熊田 広樹委員（分科会長）， 佐々木 和雄委員，澤田 典子委員，篠原 泰則委員，高森 崇委員， 武田 要委員，西山 佐代子委員，尾藤 みほ委員，松田 哲子委員 ※欠席者：大森 裕委員，土川 愛香委員，浜田 富枝委員（3名） |
| 事務局（7名） | （旭川市） 金澤福祉保険部長，鈴木福祉保険部次長，古川福祉保険課主幹， 鷺塚福祉保険課地域福祉係主査，正木福祉保険課地域福祉係員 （旭川市社会福祉協議会） 板橋事務局長，石戸谷総合相談支援課長補佐 |
| 傍聴者数等 | 0名 |
| 議事の内容 | 【仮称】第5期旭川市地域福祉計画・旭川市社会福祉審議会第7期地域 福祉活動計画骨子（案）について 議事（1） 導入部分（計画の趣旨等）について 議事（2） 現行計画の実績，現状と課題及び解決に向けた方向性について 議事（3） 次期計画の体系図及び概要について |
| （冒頭） | ● 事務局から，出席委員に配付資料の確認及び事務連絡を行った。 （以降，分科会長（以下「会長」という。）による進行） |
| （開会） （議事開始） | ● 会長から本会の出席者が12名であること，定足数に達しているため本会が成立することについて確認があった。 ● 本会の会議記録の確認者として，澤田委員が指名された。 |
| 議事（1） | ● 福祉保険課地域福祉係員から，議事(1)「導入部分（計画の趣旨等）について」の説明を行った。 ● 委員から「導入部分（計画の趣旨等）について」に関する質問はなかった。 |
| 議事（2） | ● 福祉保険課地域福祉係主査，旭川市社会福祉協議会総合相談支援課長補佐から議事(2)「現行計画の実績，現状と課題及び解決に向けた方向性について」の説明を行った。 ● 委員からの質疑等については次のとおり。 [A委員] 市民委員会，地区社会福祉協議会において地域福祉活動を行う中で感じる，地域の現状や課題について話をさせていただく。 1つ目は，「向こう三件両隣」という言葉があるが，日ごろから声を掛け合うなどの関わりが大切であるということである。信頼関係が構築されていなければ，困り事があっても相談することができないと |

考える。また、自らSOSを発信できない方、他者とのかかわりを拒否する方、周囲からみて支援が必要と感じるが閉じこもっている方、このような人たちを、いかに日々の関わりを基盤として地域や関係機関と連携し支えていくかが福祉の根幹であると思う。

2つ目は、制度の狭間の問題についてである。8050・9060問題のほか、引きこもり、ゴミ屋敷、ペットの無理な多頭飼育、貧困など、複合的・複雑化した課題を抱えたケースが存在する。これらのケースについては、地域まるごと支援員と頻りに連携を図り支援しているが、地域住民同士のスムーズな関係性や支えあいの仕組みがあれば、これらのケースに関する情報を把握しやすく、地域内でも解決できることもあるのではないかと感じている。そのため、やはり地域に軸足をおいた福祉活動を行うことが必要であると考え。

私の地域では、地域における困りごとへの対応強化に向け、地域包括支援センターなどの専門職が集まってミーティングを行っている。当然、問題の解決は簡単ではないが、私たち地域住民が支援の「つなぎ役」として活動していけたら理想である。

[事務局（市）]

委員の発言にあった地域での日々の関わりの基本となるのが、骨子（案）10ページ「解決に向けた方向性」の「⑤地域での気持ち良いあいさつを心がける」であると考えている。これは、当たり前のことかもしれないが、地域福祉の推進に向け一人ひとりが取組むことが大切であるというアンケート等での意見に基づき掲載したところ。

また、委員には「現状と課題」の「⑨隣近所との交流がないと、困っている人がいても気づけないし、気かけられない」の項目にも触れていただいた。特に自ら支援の声を上げられない人に対して、地域で「お隣さん大丈夫かな」などと、気に掛けることはとても重要である一方で、普段から交流がなければ、声も掛けづらいし、声かけられた人も驚いてしまうかもしれない。

委員から御意見のあった内容については、計画の中で地域住民の一人ひとりに意識していただきたい内容として掲げていくとともに、これらに関する取組をみんなで推進していければ良いと考えている。

[B委員]

私は町内会に20年以上携わっているが、その中で民生委員が一生懸命に活動していただいていると感じており、地域住民同士のふれあいを大切にして地域活動が行われている。コロナ禍にあっても、できるだけそのような機会の確保がなされてきたと思っている

話は変わるが、計画の中で誰もがその人らしくということ掲げていくのであれば、ジェンダーフリーに関する内容についても盛り込んでみてもいいのではないかと。

[事務局（市）]

ジェンダーフリーに関しては、直接的な表現として骨子（案）記載はしても資料10ページ「解決に向けた方向性」の「②多様な価値観や考えを持つ人・日常的に支援を必要とする人が地域で暮らしていることを理解して尊重する」の項目において、多様な価値観や考え

の中に包含されるものとして捉えており、委員の指摘のとおりその視点は非常に大切であると認識している。

「みんなで活動しよう」という中で、他者を理解し受けとめることは、地域活動の土台になると思っており、ジェンダーフリーを含めた多様性について学び配慮し合うことは、次期計画の骨格の一つであると位置付けている。

[C委員]

8050問題に関するケースが支援の現場で増えていることを実感している。その中で、心のケアの充実を図ることが必要なのではないかと考えている。親である高齢者が、自分の子どもに対して「自分が何かいけなかったのではないかと自らを責めてしまったり、子どもの側もそのような親の思いを察知して、同じく自分を責めしまったりする状況が散見されるのではないかとと思われる。

心のケアする、心の相談ができるといった部分を広げ、発信していくと、支援の糸口がつかめるのではないかなと思う。

[事務局（市）]

8050問題を始めとした複合化・複雑化したケースの支援にあっては、当事者の話を受けとめ、信頼関係を築いていかなければ、支援の方向性を一緒に模索することが難しい場合も多いと思われる。このことから、委員の御指摘のとおり、課題解決のみにフォーカスせずに、丁寧に関心寄り添っていくような支援の視点は非常に大切であり、各相談支援機関では、そういったケアを普段からいただいていることに、改めて気づかせていただいた。

また、引きこもりが生じる要因のひとつとして、自信をなくしてしまっているということがあると思う。一足飛びで就労を考えるだけではなく、地域のちょっとした活動に顔を出すことや、交流の場に少し参加してみることが、自信を取り戻すきっかけになれば良いと思うし、そのような多様な活動を地域で考え実践していくという相乗効果が生まれていくよう、取組を進められたら良いと考えている。

[D委員]

自身の経験として、孤独死された方を2名知っている。個人的には彼らの所に顔を見せるようにしていたのだが、町内会にも入っておらず、民生委員や地域とも繋がりが無い状況であった。

また、8050問題の状況となっている家族も知っており、間もなく9060に突入しようとしている。精神疾患をきっかけとして引きこもり状態となってしまったとのことで、自分がアプローチしても外に出られずにいる様子である。こういったケースが身近にあり、今後どうように関わっていくのが良いか常に考えているところである。

[事務局（市）]

地域まるごと支援員はアウトリーチ支援も行っている。アウトリーチ支援では、引きこもりなど自ら困りごとを伝えることが難しいような方を対象として「何か困っていることはありませんか」と居宅等に出向いていくアプローチである。当該支援に対し、否定的なリアクシ

ョンを取る方も少なくはなく、しばらくして改めてアプローチをかける、そのような地道な取組を行っています。

当該支援を受けている人には、それぞれの思いがありますが、少しでも『自分一人ではなく、他者から気に掛けられてる存在である』という、まずは何か小さな気づきを与えられるような支援を目指して、まるごと支援員は取組を行っています。そしてその小さな一歩を、地域住民にも温かく見守ってもらえるような在り方を、この地域福祉計画に記載することができればと考えている。

[E委員]

子どもの数が減少しているが、福祉サービスを利用する子供は増加傾向にある。そのような中で多様性を認め合う難しさを実感しており、昔では「特徴的」「ユニーク」と見られていた子が、今は「困った子」として見られてしまう傾向があるように思われ、どのように多様な価値観を共有できるかが、大きな課題になっていると思う。

現代はインターネット等で気軽に子どもの発達や支援について色々と調べられることは良いことであるが、一方で偏った情報を集めてしまうような場合もあり、このような点が昨今の子育ての難しさの一要素となっているのではないかと感じる。

また、元気な若い保護者世代が運営しているこども食堂なども見られており、どうすれば、支援を求めている人と活動者とがより良く繋がっていくことができるかということを中心に考えていければ良いと思う。

[事務局（市）]

委員の発言と同様に、骨子（案）の土台になっている旭川未来会議2030福祉分野WGの話し合いにおいても、「多様性の理解、特に子どものうちから、それらに触れて学ぶ機会を拡充することが大事である」という意見があった。

「現状と課題」の「④（特に子どもについて）町内会などの地域に触れる機会が減少している」については、これらのことを踏まえ記載したものであり、市や市社協による出前講座や、加えて子どもが地域の中でほかの子どもや大人と一緒に活動する中で、偏見なく自然に、自分の身近には色々な人がいることは当たり前であると思えるような取組を本計画として推進していきたいと考えている。

[A委員]

子どもが地域に触れる機会をつくることは大事である。市民委員会は63地区あるが、子どもに関わる活動が少ないと感じている。

私の住む地区では、多世代交流を行っており、そのほかに、防災の教育や認知症高齢者の徘徊の搜索模擬訓練を実施している。無理に子供たちを参加させようとしているわけではなく、自由に参加できるような形をとっており、学校で行う総合的な学習のように、「地域」をテーマとして、問題意識を持ち自ら考え解決しようとする機会として、活動を見たり参加できるようにしている。こういった機会は、子ども達が地域とふれあうことにも繋がるので大切な取組であると思う。

| | |
|--------------|---|
| | <p>[事務局（市）]</p> <p>子どもも参加できる多世代交流等活動は、地域で活動することは「楽しい」と自然に感じてもらえると思うし、その後の地域活動への意識も変わってくると思われるので、非常に有意義であると改めて感じた。</p> <p>[B委員]</p> <p>私の町内では、夏にこども花火大会、年末には餅つき大会を行っている。近所の方たちもたくさん集まってくれている。</p> <p>こういった活動を行う町内会の役員が固定化していることが懸念されるどころだが、私の町内会はブロック制にしており、ローテーションでブロック長を決める形となっている。行事を実施するためにも、このような仕組みが一定程度必要なのではないかと感じている。</p> |
| <p>議事（3）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉保険課地域福祉係主査から議事(3)「次期計画の体系図及び概要について」の説明を行った。 ● 委員からの質疑等については次のとおり。 <p>[A委員]</p> <p>10 ページ「解決に向けた方向性」の「⑭地域防災活動の好事例の周知、活動に対する然るべきサポートにより、取組の普及を図る」について、有事に備えた地域の防災の意識は、最近薄れてきている印象が受ける。旭川は集中豪雨、河川氾濫に気を付けていかなければならない。そして旭川市では、平常時における避難行動要支援者名簿を申請している地縁組織が少ないと聞いている。</p> <p>私の地域では、民生委員と合同で会議を実施し、個別支援計画を作成している。そのほかにも、地域の防災計画を作成し、地区の防災マップを作製したり、避難所の在り方を考えたりしている。これらの活動をとおして、災害に対する備えや支援は、地域での大きな課題になっていると感じる。</p> <p>活動を支える担い手も少なくなってきたり困っているが、災害対策が一番大事なことであると思っており、安心、安全な地域づくりを地域住民と一緒に情報共有を図りつつ進めていくことを計画の要素として明記することは非常に重要なことであると思う。</p> <p>[事務局（旭川市社会福祉協議会）]</p> <p>地域まるごと支援員のなかで、地区社会福祉協議会と共同で個別支援計画を推進していかなければならないという話がでている。</p> <p>地区社会福祉協議会のほか、地縁組織で行われている取組をとおして、先駆的な防災の取組をしている地域の情報収集を進めつつ、今回の計画に盛り込んでいきたいと思っている。</p> <p>[F委員]</p> <p>10 ページに「目指す地域像 1」の「基本的な考え方」のうち「（2）権利擁護・再犯防止を推進する」について、「再犯防止」という言葉が唐突に記載されている印象があり、また他の項目と比較して表現がきつい印象がある。例えば「地域から犯罪をなくしましょう」など、住民一人ひとりになじむ表現にした方が良いと思うし、また、地域</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>福祉活動の大きな枠組として「再犯」が出ていることについては、若干の違和感があり補足が必要ではないか。</p> <p>[事務局（市）]</p> <p>委員御指摘のとおり、「再犯防止」という具体的表現が記載されることについては唐突感があるものと思われる。全体を見て他の項目での表現と揃えたいと思う。再犯防止は、福祉保険課で携わっている取組であり、今後その内容も計画に盛り込む予定であるが、骨子（案）としての記載の在り方については改めて検討したいと考えている。</p> <p>[D委員]</p> <p>私も犯罪を防止するという表現としつつ、その内容として再犯防止を含むような形にするのが良いのではないかと思う。</p> <p>犯罪は特別な人だけが犯すものではなく、何かをきっかけに犯罪を犯してしまう可能性があるものである。小さな違和感やサインを見逃さず、誰かがその人に声をかけていたら犯罪は犯さなかったのではないかと思うケースがあると思われる。地域福祉計画ではそのような視点も持ち合わせてほしいと思っている。これまでにも話があったが、自ら困っていることについて声を上げることができない人への関わり方が非常に重要になってくると考える。</p> <p>[事務局（市）]</p> <p>再犯のみならず、犯罪を防止するという貴重な御意見であり、これまでの皆様からの意見にも関わってくる内容であったと思う。例えば、いわゆるステレオタイプとは異なる個性や考え方の人が、周囲から理解を得ること難しく地域で孤立してしまう。そのことが不適応な行動や時には罪を犯すことの要因の一つになりうる、このようなことがないよう地域としてできる取組を行っていく必要があると考える。</p> <p>これまで、委員の皆様から「多様性を認め合う必要性」「自ら声を上げられない人に寄り添ってアプローチしていく視点」「向こう三軒両隣」など貴重な意見をいただいていた、それらの全てが犯罪防止、再犯防止においても重要な示唆となっているものと認識している。</p> <p>このように各要素が複数の「目指す地域像」「基本的な考え方」に関係してくるものであり、計画骨子そして本計画の策定において、皆様とともに整理しながら、作業を進めたいと考えている。</p> |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉保険課地域福祉係主査から、事務局で会議記録（案）を作成すること、熊田会長及び会長から指名のあった澤田委員に後日確認を依頼することについて確認した。 ● 同じく、福祉保険課地域福祉係主査から次回分科会の開催について説明を行った。 ● 委員から本件に係る質疑はなく、今回使用した資料及び本日の意見等を踏まえ計画骨子（案）の作業を進めることについて、本専門分科会の承認を得た。 |
| 閉会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 熊田分科会長から閉会の挨拶を行った。 |